

出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9024 号 横浜市建設局都市計画基本図データ (地図レベル2500) により作成
河川	横浜市道路局 河川図
浸水想定区域	帷子川水系浸水想定区域図
土砂災害警戒区域	横浜市建設局 土砂災害警戒区域 (令和4年2月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建設局 土砂災害特別警戒区域 (令和4年2月現在)

● **想定条件** ●
帷子川水系：24時間で390mmの降雨

旭区洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域(想定最大規模※)

帷子川水系河川：帷子川、矢指川、中堀川、新井川
くぬぎ台川

この洪水ハザードマップは、帷子川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは
「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



凡例 (Explanatory Notes)

○浸水深のめやす

10.0～20.0m未満	※旭区内では、該当エリアはございません。
5.0～10.0m未満	
3.0～5.0m未満	2階部分まで浸水する深さ
0.5～3.0m未満	1階天井をこえて浸水する深さ
0.0～0.5m未満	おとなの膝まで浸る深さ

○避難する際に注意する箇所

	堤防決壊等に伴う氾濫や河岸侵食により家屋が倒壊・流出するおそれがあり、屋内での避難ではなく、早期の立ち退き避難が必要な区域 ※家屋の構造、避難経路や避難経路等の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所 (進入すると危険なため、冠水の通行は控えてください。)
	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがある区域と認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損傷が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域と認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

	市界		高速道路・有料道路
	町界		主要道路
	JR線・駅		避難場所
	私鉄線・駅		雨量観測所
	市営地下鉄線・駅		水位観測所
			河川監視カメラ

洪水浸水想定区域(想定最大規模)はどやって決めたの？

こちらの面の洪水浸水想定区域※1の範囲やその深さは、想定し得る最大規模の降雨(24時間で390ミリ)を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。

【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307ミリの降雨を観測しています。※2

なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していませんので、着色されていない区域でも浸水が発生する場合があります。実際の浸水深と異なる場合があります。また、図面の表記上、主要道路等の浸水深は着色されておりませんので、詳しい浸水深は、神奈川県ホームページでご確認ください。

※1 神奈川県ホームページ
(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/t3747/p1039490.html>)

※2 横浜地方気象台ホームページ
(<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/>)

風水害時における避難場所について

◇災害時には、指定緊急避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合がありますので、避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。

◇2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。

◇すでに浸水が始まっている場合などには無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところに避難してください。

なお、旭区では浸水時の避難場所として、下記に示した指定緊急避難場所を優先して開設します。

開設する条件	No.	避難場所	所在地	位置
洪水等で被害が予想される場合	①	白根小学校	中白根1-9-1	G-3
	②	上川井小学校	上川井町 2913	D-2
	③	笹野台小学校	笹野台 4-48-1	D-4
	④	南本宿小学校	南本宿町 79	F-6

※1 地区の避難場所は、こちらからも確認できます。

